

平成25年度秋田県水産振興センター業務概要

平成25年6月

秋田県水産振興センター

平成25年度秋田県水産振興センター業務概要

目 次

1	位置	1
2	沿革	1
3	組織体制	1
	(1) 組織概要	
	(2) 職員数	
	(3) 業務分担	
4	事業概要	5
	(1) 当初予算	
	(2) 面積・建物・施設設備	
	①面積	
	②主要施設	
	③主要機器	
5	研究計画	9
	(1) 基本方針と目標（課題計画一覧表）	
	(2) 平成25年度実施課題	
	①課題一覧	
	②課題の内容	
6	主要行事・会議等	25
	(1) 主要行事・会議	
	(2) 研究管理のための場内会議・検討会	
7	技術支援	26
	(1) 委員委嘱	
	(2) 講師派遣	
	(3) 受入研修	
	①インターンシップ事業	
8	研究成果の発表・広報	27
	(1) 主要刊行物の発行状況	
	(2) 不定期刊行物の発行状況	
	(3) 実用化できる試験研究成果(平成23年度試験研究成果)	
	(4) 学会発表・研究会発表	
	(5) 新聞等への掲載	
	(6) ホームページの更新・アクセス数	
	①ホームページの更新	
	②コンテンツアクセス数	
9	知的財産	32
	(1) 特許関連一覧	
10	視察・見学・総合学習	33

1 位置

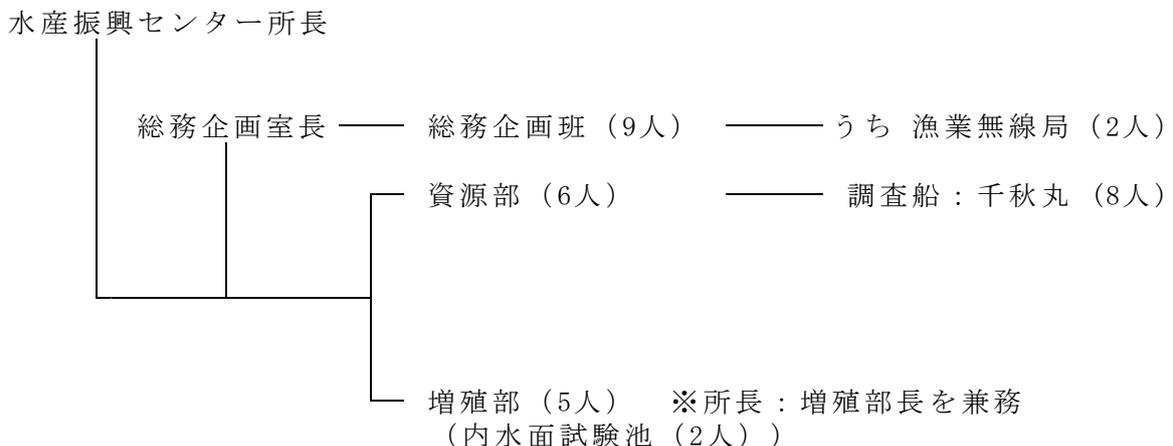
水産振興センター 秋田県男鹿市船川港台島字鶴ノ崎8番地の4
内水面試験池 秋田県北秋田市阿仁中村字戸草沢67

2 沿革

- 明治33年 : 水産試験場設立認可、南秋田郡土崎港御倉町に設立
- 明治35年 : 南秋田郡土崎港相染新田に移転
- 大正11年 : 南秋田郡土崎港町に新庁舎を建設
- 昭和15年 : 南秋田郡船越町に八郎湖養殖部を設置
- 昭和25年 : 南秋田郡船川港町に廃止となった国立水産試験場秋田分場の庁舎を得て移転
- 昭和32年 : 男鹿市船川港に新庁舎を建設
- 昭和36年 : 男鹿市船川港に水産講習所を設置
- 昭和40年 : 水産講習所を廃止し、沿岸漁民研修所を設置
- 昭和41年 : 男鹿市戸賀に水産種苗供給所、沿岸漁民研修所を設置
- 昭和42年 : 南秋田郡八郎潟町に八郎湖増殖指導所を設置
- 昭和44年 : 水産種苗供給所を水産試験場戸賀分場と改称
- 昭和47年 : 八郎湖増殖指導所を内水面水産指導所と改称
- 昭和55年 : 男鹿市船川港台島に栽培漁業センターを設置
水産試験場戸賀分場を廃止
- 昭和60年 : 男鹿市船川港台島に水産試験場、栽培漁業センター、沿岸漁民研修所を統合して水産振興センターを設置
- 平成 3年 : 内水面水産指導所を水産振興センターに統合
- 平成 5年 : 由利郡象潟町にアワビ種苗生産施設を設置
- 平成 6年 : 北秋田郡阿仁町中村に内水面試験池を設置
- 平成18年 : 組織統合に伴い、秋田県農林水産技術センター水産振興センターに改称
- 平成24年 : 組織改変に伴い、秋田県水産振興センターに改称

3 組織体制

(1) 組織の概要



(2) 職員数

平成25年4月1日

区 分	事務職員	研究職員	技術職員	海事職員	現業職員	計
所長		1				1
総務企画室長			1			1
総務企画班	3		5		1	9
資源部		6		8		14
増殖部		6			1	7
計	3	13	6	8	2	32

(3) 業務分担

	部 班	業 務 内 容	職 名	氏 名
		水産振興センターの総括	所長	中村彰男
総務企画室		総務企画室の総括、試験研究推進の総括、人事に関すること、機関横断的な連携研究の促進	室長	柴田 理
	総務企画班	総務企画班の総括、文書主任、人事・サービス管理、予算編成・執行の管理、福利厚生・安全衛生・安全運転等管理	主幹（兼）班長	石山正喜
		企画・調整の総括、広報活動の総括、県南地区の水産業改良普及指導、水産資源の増大・販売促進・消費拡大、漁業就業者確保育成、青年・女性漁業者交流大会、全国水試場長会関係	副主幹	中林信康
		県北地区の水産業改良普及指導、水産資源の増大・販売促進・消費拡大、青年・女性漁業者交流大会、栽培漁業、資源管理型漁業の推進、漁獲状況調査、漁業就業者確保育成、沿岸漁業改善資金、漁業士活動支援	専門員	古仲 博
		漁業用海岸局、電波法、図書・資料整理、HP作成・管理、事業報告書、施設見学対応、電子機器	主査	伊藤 保
		予算、決算、物品調達・庁舎修繕、旅費、環境保全率先実行計画の推進、支払事務	主査	菅原 剛
		各部・班の企画・調整、研究運営協議会及び試験研究課題評価、機関業務評価、公設試中長期計画、広報活動	主査	土田織恵
		漁業用海岸局、電波法、HP作成・管理、事業報告書、施設見学対応	主任	天野正義

	部 班	業 務 内 容	職 名	氏 名
		調査船業務全般	主任	石川 肇
		〃	主任	鎌田勝仁
		〃	技師	田口重直
		〃	技師	船木勝美
		〃	技師	寺地 努
		〃	技師	大久保樹一
	増殖部	増殖部の総括	部長（所長兼務）	中村彰男
		種苗生産、栽培漁業協会、栽培施設管理、餌料培養（ワムシ）、種苗生産技術の高度化研究（トラフグ・アユ）、トラフグ稚魚生産育成放流事業、藻場と磯根資源の維持・増大及び活用に関する技術開発（ワカメ）、県産ワカメ増産支援対策事業	主任研究員	斎藤和敬
		内水面試験地の運用、魚類防疫、海面増養殖指導、種苗生産技術の高度化研究（ガザミ）、ハタハタ資源変動要因と漂着卵研究、サクラマス水系別増殖技術の確立	専門員	白幡義広
		藻場と磯根資源の維持・増大及び活用に関する技術開発（藻場・アワビ・イワガキ）、魚類防疫、情報化リーダー	研究員	加藤芽衣
		種苗生産技術の高度化研究（ガザミ） ハタハタ資源変動要因と漂着卵研究 種苗生産技術の高度化研究（アユ・トラフグ）、餌料培養	技師	松山大志郎
		種苗生産用マダイ・ヒラメ親魚管理、栽培施設の保守・維持、栽培機器の保守・維持	技能主任	秋山 博
	(内水面試験池)	内水面試験池の管理運営、サクラマスの水系別増殖技術の確立（生産・指導）、サケの育成・放流指導、資源管理技術の確立、よく釣れる天然遡上アユを由来とするアユの種苗生産、内水面養殖指導、クニマスの増殖	主任研究員	藤田 学
		サクラマスの水系別増殖技術の確立（調査）、水系別在来溪流魚の確保と増殖技術確立、三大河川最重要種アユの増大、河川・湖沼重要水産資源の増殖技術の改善・指導、内水面増殖指導、情報化リーダー	主任研究員	佐藤正人

4 事業概要

(1) 当初予算 (平成25年度)

(単位：千円)

事業名	当初予算額 (事業費)	摘要
(1) 給与費	243,791	
(2) 管理運営費	68,169	
1) 管理運営費	30,702	・事務管理経費、建物の維持管理費
2) 研究施設維持管理費	26,474	・事務管理経費、施設・船舶維持管理費
3) 魚類防疫対策事業	1,178	・研究用機器類及び船舶の維持管理費
4) 研究推進活動費	3,020	・研究員の資質向上等活動経費
5) 公共業務用無線通信業務費	6,795	・漁業無線通信業務費
(3) 研究活動費	35,687	
1) 政策研究費	26,263	・新規課題；0、継続課題；7、計7
2) 外部資金活用研究費	9,424	・新規課題；0、継続課題；2、計2
(4) 施設・設備整備費	8,136	・海水濾過設備濾材取替整備、STD観測装置
計	355,783	

(2) 面積・建物・施設設備

① 敷地面積 (総面積 62,531.93㎡)

区分	面積 (㎡)
本館棟及び栽培漁業施設	35,826.24
船舶棟	3,600.00
戸賀施設	4,606.11
内水面試験池	13,106.93
その他	5,392.65
計	62,531.93

② 主要施設

(本館棟及び栽培漁業施設)

名称	面積 (㎡)	構造
本館棟	2,207.22	鉄筋コンクリート3階建て
生物実験室	115.51	
化学実験室	141.32	
魚病実験室	68.43	
職員室	178.15	
電算機室	25.00	
実験水槽棟	450.00	鉄骨造り平屋建て FRP円形水槽30トン×2基 10トン×5基 5トン×2基
魚類甲殻類棟	520.05	シート角形水槽10トン×2基 鉄骨造り平屋建て 鉄筋コンクリート製水槽50トン×10面

(続き)

名 称	面積 (m ²)	構 造
巡流水槽棟	720.00	鉄骨造り平屋建て 鉄筋コンクリート製水槽20トン×2面 FRP巡流水槽11.5トン×10基
魚類棟	837.80	鉄骨一部鉄筋コンクリート造り2階建て 鉄筋コンクリート製水槽100トン×8面
ワムシ培養棟	540.00	鉄骨造り平屋建て 鉄筋コンクリート製水槽20トン×12面 5トン×6面
グリーン培養池	808.22	(屋外) 鉄筋コンクリート製水槽80トン×1面 50トン×4面 25トン×5面
屋外種苗生産池	332.77	(屋外) 鉄筋コンクリート製水槽100トン×8面
海水取水管		内外面ライニング鋼管φ508mm、240m 着水槽 鉄筋コンクリート造り40.8m ³
揚水ポンプ棟	29.03	コンクリートブロック造り平屋建て 取水ポンプ (FPS型吸込渦巻ポンプ) (4トン/min×34m、37kw) ×3台 真空ポンプ (NVD型水封式ポンプ) (0.1トン/min、0.4kw) ×2台 送水管 (塩化ビニール製) φ300mm×416m
海水濾過槽	120.96	鉄筋コンクリート造り平屋建て 200トン/hr×2基 (重力式濾過)
海水貯水槽	191.30	鉄筋コンクリート造り平屋建て 海水300トン×1基
海水・淡水貯水槽		鉄筋コンクリート造り平屋建て 海水200トン×1基、淡水100トン×1基
淡水取水施設	82.80	貯水槽 鉄筋コンクリート造り50トン 取水管 塩化ビニール製φ100mm×220mm 取水ポンプ 10トン/hr×2台
淡水濾過槽		鋼製φ1500mm×H1500mm 10トン/hr×1台
揚水コントロール槽	11.20	コンクリートブロック造り平屋建て 濾過槽逆洗用コンプレッサー (165リットル/min、15kw) ×1台

(続き)

名称	面積(m ²)	構造
機械棟	182.00	鉄筋コンクリート造り平屋建て 変電設備 発電機 125KVA 冷蔵庫 2.2kw、 4℃、 4.4m ² 冷凍庫 10.8kw、 -50℃、 21.2m ² ブロワー10kw 10.0トン/min×1台 7.5kw 6.0トン/min×2台
ボイラー室	45.00	コンクリートブロック造り平屋建て 温水ボイラー 200,000kcal/hr×2台 160,000kcal/hr×1台 鉄筋コンクリート製
排水濾過槽	231.00	(530トン)
作業員詰所	175.86	木造平屋建て
車庫棟	206.25	鉄骨造り平屋建て
倉庫棟	252.00	鉄骨造り平屋建て
船舶棟	400.80	木造一部鉄骨造り平屋建て

(内水面試験池)

名称	面積(m ²)	構造
管理棟	91.91	木造平屋建て
試験棟	505.44	鉄骨造平屋建て FRP円形水槽 1トン×26基 3トン×10基 FRP角形水槽 1トン×10基 アトキンス2kふ化槽×3基 " (増収型) ×3基
人工河川		流路延長 163.7m 上流域 52.1m 中流域 82.8m (魚道魚巢試験区1.5×10×2m) 下流域 28.8m
サクラマス 親魚養成池	122.17	
排水沈殿槽	55.65	鉄筋コンクリート製 166.95トン (2.65×21×3m)
屋外水槽		FRP円形水槽 30トン× 6基 10トン×10基 FRP巡流水槽 30トン× 5基

③主要機器

品名	主な利用部門
C T D 測定装置	資源部
漁網監視装置	〃
海洋データ処理システム	〃
水中テレビ	〃
海底地形探査装置	〃
軟 X 線装置	資源部・増殖部

5 研究計画

(1) 基本方針と目標

◎現状と課題

栄養のバランスに優れた魚介類は、健全な食生活に不可欠なものであり、健康志向の高まりなどから安全で新鮮な水産物への需要が高まっている。

しかし、本県の水産業は、漁業就業者の減少と高齢化の進行、主要魚介類の資源水準の低下、幼稚仔の保育場や産卵場としての機能を有する藻場の減少、魚価の低迷など厳しい状況にあり、県民に安全で新鮮な地場水産物を安定供給するためには、適正な水産物価格を維持するとともに、資源の増殖、適正管理が大きな課題となっている。

また、漁業生産の場である沿岸域、河川・湖沼は、近年のアウトドア志向の高まりから釣りを始めとするレクリエーションの場としての役割も重要となっている。沿岸においては、ゴミの入網や漂着が増加し、内水面においては自然な状態が保たれた河川・湖沼が減少し、オオクチバスなどの外来魚が分布を拡大し、カワウの出現による漁業被害も懸念され、海面、内水面を通じて環境の改善と保全が大きな課題となっている。

◎主要な試験研究目標

水産資源の特徴として、自己更新（自己再生産）する、変動が大きい、過剰漁獲に陥りやすいなどが挙げられる。また、水産資源は生物資源であることから、生産力は環境との対応により決定される。これらのことから、水産資源の持続的な利用を図るために、漁場環境の保全と資源の適正利用を基本に、資源の管理、資源の添加、養殖、漁場の整備などに関する調査・研究を実施する。

具体的には、平成24年度に一部改定された秋田県農林水産部試験研究機関中長期計画に掲げている4つの基本方針「Ⅰ 地球温暖化を視野に入れた環境把握及びそれらに対応した技術開発」、「Ⅱ 売れ筋になる『秋田ブランド』の育成」、「Ⅲ 少量多魚種をバランス良く活用するシステム構築」、「Ⅳ 放流効果の向上や生物多様性に配慮した増殖技術の開発」に基づき、次の10項目を重点テーマとして取り組んでいく。

【重点テーマ】

- ① 藻場の多様な機能を維持・増大させる技術の確立
- ② 地球温暖化等への対策
- ③ ハタハタの資源管理型漁業の推進
- ④ トラフグ等の種苗生産・放流技術の開発
- ⑤ 秋田に適した貝類・藻類に関する技術開発
- ⑥ サクラマス水系別増殖・管理技術の開発
- ⑦ 底魚資源の管理手法の確立
- ⑧ 新たな漁獲対象種の資源調査
- ⑨ つくり育てる漁業の推進に関する技術開発
- ⑩ 内水面における重要種の増殖・管理技術の確立

重点的に取り組む研究等のテーマのロードマップ

基本方針Ⅰ 地球温暖化を視野に入れた環境把握及びそれらに対応した技術開発

重点テーマ① 藻場の多様な機能を維持・増大させる技術の確立 魚介類の産卵場や二酸化炭素(CO2)吸収など多様な機能を持つ藻場の造成技術を開発する。											
課題名等	期間	H23～H25(3年間)			H26～概ねH32(7年間)						
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
藻場減少要因の解明と造成に関する実証(H23～32) 産卵場、稚魚の育成場、さらには二酸化炭素の吸収源として重要な藻場が近年減少傾向にあることから、藻場の減少要因を解明し、健全な藻場の形成条件を明らかにするとともに、藻場を復元、造成するための技術を開発する。		磯根漁場高度化利用技術の確立(H19～23)									
		藻場減少要因の解明に関する研究(H24～28)									
					県南部における藻場造成に関する実証試験(H26～30)						
					男鹿・県北部における藻場造成に関する実証試験(H28～32)						

重点テーマ② 温暖化等への対策 海洋・内水面環境について長期的に把握するとともに、地球温暖化等により変化した環境に適応できる新たな魚介類の増養殖技術開発に取り組む。											
課題名等	期間	H23～H25(3年間)			H26～概ねH32(7年間)						
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
海洋・内水面環境の長期変動把握と水産資源保全技術の開発(H21～32) 近年、全国的に地球温暖化やレジームシフトによる魚種の交代、エテゼンクラグの大量発生等が顕在化しており、本県においては、「県の魚 ハタハタ」への影響も危惧されている。このため、これらが海洋・内水面環境や水産資源に及ぼす影響を把握するとともに、必要に応じて水産資源を健全に保つための技術を開発する。		環境変動の指標となる海洋・内水面環境の長期変動の把握(H21～32)									
					水産資源を健全に保つための技術の開発(H28～)						

基本方針Ⅱ 売れ筋になる「秋田ブランド」の育成

重点テーマ③ ハタハタの資源管理型漁業の推進											
安定的なハタハタ資源の維持のために資源量推定の精度向上を図るとともに、漂着卵を利用した効率的な孵化放流技術を確立するほか、漁業経済の面からの資源利用について検討する。											
課題名等	期間	H23～H25(3年間)			H26～概ねH32(7年間)						
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
ハタハタの資源管理型漁業の推進(H22～32) 県の魚であるハタハタについては、平成7年漁期からスタートした漁獲可能量制度が広く定着してきているが、発生年級群ごとに資源豊度にバラつきがみられることから、変動要因の解明が必要である。安定的な漁獲量を維持するためには、資源量推定精度の向上が重要であり、資源管理に関する調査は今後も重点的に取り組むとともに、漂着卵を適切に管理してふ化放流する技術を開発する。 また、近年は、漁獲が短期間に集中することなどを要因として、魚価が低迷する傾向がみられることから、資源管理と併せて漁業経済の面からのアプローチも検討していく。	資源変動要因の解明(H22～26)			長期的な資源変動傾向の予測(H27～32)							
	資源量推定精度の向上(H25～28)										
	資源安定化技術の確立(H22～26)			資源安定化技術の応用研究、より簡便な技術の開発(H27～32)							
	資源の効率的利用対策の検討(H25～32)										

重点テーマ④ トラフグ等の種苗生産・放流技術の開発											
「北限のトラフグ」としてブランド化を進めているトラフグ及び新たな栽培対象種の種苗生産・放流技術を開発する。											
課題名等	期間	H23～H25(3年間)			H26～概ねH32(7年間)						
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
種苗生産技術の高度化に関する研究(H23～26) トラフグについて、噛み合いによる尾鰭欠損のない正常魚の割合を高めることにより、優良種苗の安定生産を可能にし、対象種の漁獲量増大に結び付ける。	トラフグ親魚確保・育成、放流通サイズ育成事業(H22～26)										
	種苗生産技術の高度化に関する研究:トラフグ(H23～26)										
	秋田県沿岸域におけるトラフグの資源生態の把握(H25～29)										
	トラフグ放流効果実証試験(H27～31)										
	メバル類等の新魚種に関する資源造成技術開発(H27～32)										

重点テーマ⑤ 秋田に適した貝類・藻類に関する技術開発 秋田の海域の環境条件に合致した貝類及び藻類の増養殖技術を開発する。											
課題名等	期間	H23～H25(3年間)			H26～概ねH32(7年間)						
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
秋田に適した貝類・藻類に関する増養殖技術開発(H19～32) 全国トップクラスの漁獲量を誇る本県イワガキや県南部沿岸の重要種であるアワビ等の資源及び漁獲量を高位に維持・安定させるための技術を開発する。また、ワカメ、ホンダワラ(シバサ)やアカモク(ギバサ)等の海藻を対象として、漁港内を含めた本県海域に適合した、低コストで効率的な秋田型増養殖技術を開発する。		磯根漁場高度化利用技術の確立(H19～23)									
		イワガキの資源添加技術の開発(H20～24)									
		ワカメ、ホンダワラ、アカモク等藻類の秋田型増養殖技術開発(H24～H28)									
		アワビ、イワガキ、イガイ等、貝類の秋田型増養殖技術開発(H25～H32)									

重点テーマ⑥ サクラマス水系別増殖・管理技術の開発 サクラマスの資源増大を図るため、内水面漁協等が行う孵化放流事業が円滑に行われるよう、各水系の条件に合った増殖・管理技術を確認する。											
課題名等	期間	H23～H25(3年間)			H26～概ねH32(7年間)						
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
水系別リクラマスの増殖・管理技術確立(H22～32) 漁協等が行う増殖事業をより確実なものにするため、コストの低減、遺伝的な多様性の保持、天然親魚への影響軽減及び増殖事業の効率化などを目的とし、小型種苗と継代飼育魚の放流技術の確立を図る。 また、県内3水系のサクラマス内水面試験池で親魚養成し、併せて水系別サクラマスの繁殖形質や生態的特性を把握するとともに、遺伝的多様性に配慮し、水系に適合した増殖技術を検討する。 さらには、リクラマスの採捕期間の変更に関する要望が強いことから、禁漁期間における特別採捕調査や採捕期間における採捕状況調査を行い、帰親魚の資源状況を把握し、採捕期間の見直しや、サクラマス資源の効率的な活用と管理に係る研究を行う。		小型種苗と継代飼育魚の標識放流、追跡調査(H22～26)									
		放流種苗の帰親状況の把握(H24～29)									
		コストの低減、遺伝的多様性に配慮した効率的な増殖技術の確立(H25～32)									
		水系別サクラマス稚魚の確保(H22～23)									
		水系別サクラマスの親魚養成、繁殖形質、生態の把握(H22～23)									
		水系別増殖技術の検討(H26～32)									
		帰親魚の採捕状況調査(H22～26)									
		帰親魚の資源状況の把握(H25～28)									
		資源の効率的な活用と管理に関する検討(H26～32)									

基本方針Ⅲ 少量多品種をバランス良く活用するシステム構築

重点テーマ⑦ 底魚資源の管理手法の確立 本県の基幹漁業である底曳網について、一部の魚種に漁獲を集中させることなく、少量多品種を有効に利用して長期的に安定して漁獲する資源管理手法を確立する。											
課題名等	期間	H23～H25(3年間)			H26～概ねH32(7年間)						
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
底魚資源の管理手法の確立(H22～32) 本県の基幹漁業である底びき網漁業では、70種以上の魚分類が漁獲されているが、量的に多い魚種はハタハタのほかマダラ、スケウダラ、ホッケ、カレイ類などが挙げられる。これらの魚種は、漁獲対象サイズに成長するまでに2～数年がかかることから、生残率が大きく変動する時期を終えて安定期となる幼稚魚期の資源豊度を把握し、さらに、その後の漁獲状況の追跡調査により、新たに漁獲加入する年級群の資源量を推定する。このように、複数の魚種について、それぞれ数年後の資源状況を推定することにより、計画的に漁獲努力を傾注する魚種の選択、資源の有効利用、漁家所得の安定を図る。	新規漁獲加入群の資源豊度に関するデータ収集と調査手法の確立(H22～26)										
	漁獲対象資源量の推定手法の確立(H25～28)										
	底魚資源の効率的利用対策の検討・提示(H26～32)										

重点テーマ⑧ 新たな漁獲対象種の資源調査 本県の海域に棲息しながら十分利用されてこなかった魚類の資源状況を把握し、漁業経営の向上に資する。											
課題名等	期間	H23～H25(3年間)			H26～概ねH32(7年間)						
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
新たな対象種の資源調査(H25～32) 本県沿岸、沖合域の未遊、棲息するクロマグロ、アラ等の新たな魚種を対象にして、漁場の分布、漁場形成要因を把握するとともに、延縄漁具を主体とした試験操業により資源状況を調査する。	新たな魚種の漁場分布、漁場形成要因の把握(H25～32)										
	延縄漁具等の試験操業による資源状況の把握(H25～32)										

基本方針Ⅳ 資源添加効率の向上や、生物多様性に配慮した増殖技術の開発

重点テーマ⑨ つくり育てる漁業の推進に関する技術開発 ガザミ及びアユについて、種苗生産技術の高度化を図るほか、既存の栽培対象種の放流効果を高める。											
課題名等	期間	H23～H25(3年間)			H26～概ねH32(7年間)						
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
栽培漁業の効率化に関する研究(H23～26) ガザミについては疾病による生残率の低下を克服し、アユについては飼育期間を短縮することにより、優良種苗の安定生産を可能にし、対象種の漁獲量増大に結び付ける。また、マダイ、ヒラメ、クルマエビ、アワビ等について放流効果のモニタリング体制を整備し、放流効果の向上を図る。	種苗生産技術の高度化に関する研究:ガザミ、アユ(H23～26)										
	マダイ、ヒラメ等の放流技術の高度化に関する研究(H26～30)										
	ガザミ、クルマエビ等の放流技術の高度化に関する研究(H27～32)										

重点テーマ⑩ 内水面における重要種の増殖・管理技術の確立											
アユの遺伝的多様性に配慮した種苗生産技術、及び天然資源の増殖・管理技術を開発する。また、特定河川の固有資源としてのイワナの増養殖・管理技術を確立する。											
課題名等	期間	H23～H25(3年間)			H26～概ねH32(7年間)						
		H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
アユの増殖技術の確立(H22～32) アユの継代を重ねない種苗は、遺伝的な多様性を保持し、放流しても冷水病に耐性があり、かつ、ナワバリを持つ性質が強くと釣れることから、天然アユを由来とする種苗生産技術を確立する。 天然アユの遡上状況等に係る情報を迅速に提供するとともに、アユ資源の動向を把握するため、アユの天然遡上と成育、釣獲状況等を調査する。 また、河川の中・下流域におけるアユの産卵実態を把握することにより、産卵親魚の保護等、再生産力を最大限活用したアユの増殖・管理技術を確立する。	天然アユの採捕・親魚養成・採卵技術の確立(H22～26)	[Progress bar from H22 to H26]									
	天然アユに由来する種苗生産の実施(H27～32)				[Progress bar from H27 to H32]						
	天然遡上、成育、釣獲状況の把握(H21～32)	[Progress bar from H21 to H32]									
	産卵場調査(H21～25)	[Progress bar from H21 to H25]									
	再生産力を活用したアユの増殖管理技術の確立(H26～32)				[Progress bar from H26 to H32]						
在来イワナの増殖・管理技術の確立(H22～36) ③水系においてイワナの放流履歴のない場所を探索し、在来イワナを特定するとともに、内水面試験池で育成することにより、水系に適合した増養殖技術と在来イワナの管理技術を確立する。	在来イワナの確保、DNAの解析、遺伝的形質等の把握(H22～24)	[Progress bar from H22 to H24]									
	親魚養成採卵育成技術の確立、繁殖形質の把握(H24～26)	[Progress bar from H24 to H26]									
	在来イワナを用いた増養殖・管理技術の確立(H26～32)				[Progress bar from H26 to H32]						

(2) 平成25年度実施課題

① 課題一覧

課題番号	課題名	研究期間	当初予算 (千円)	分担	頁
1	ふるさとの海の恵みを守る研究	H21～25	1,181	資源部	16
2	底魚資源管理手法の確立に関する研究	H22～26	1,690	資源部	17
3	我が国周辺水域資源調査	H17～	7,074	資源部	18
4	大型クラゲ出現調査及び情報提供事業	H18～	2,350	資源部	19
5	ハタハタの資源変動要因と漂着卵に関する研究	H22～26	1,411	資源部・増殖部	20
6	種苗生産技術の高度化に関する研究	H23～H26	15,717	増殖部	21
7	秋田の川と湖を守り豊かにする研究	H21～25	798	資源部・増殖部	22
8	生物の多様性に配慮した内水面増養殖技術の確立に関する研究	H22～26	4,290	増殖部	23
9	藻場と磯根資源の維持・増大及び活用に関する技術開発	H24～28	1,176	増殖部	24

② 課題の内容

課題番号 1	課題名 ふるさとの海の恵みを守る研究
研究期間： 継続 H21～25 担 当 部： 資源部 共同研究：	当初予算 1,181(千円) (内訳)国庫 一般 1,181 その他
研究の目的 本県沿岸の水・底質及び生物相の調査を行い、環境の経年変化を把握し、漁場環境の保全を図るための基礎資料とする。また、沿岸地先及び底びき網漁場の水温観測を継続実施し、水産資源の変動や漁況への影響を解明する。	
試験計画 (1)底びき網漁場の海洋観測 (2)沿岸域の水質・底質分析 (3)沿岸域の生物層調査 (4)沿岸定地水温観測	
実績・成果 1 沿岸域の水質・底質分析 ・ 沿岸域の26定点の水質と底質の分析を行った。 ・ 水質は、CODが秋田港沖の1定点で水産用水基準を若干上回ったが、春期に限った一時的なものであった。 2 沿岸域の生物層調査 ・ 沿岸域の26定点でプランクトンと底生生物の調査を行った。 ・ プランクトン調査では、6月にウミタル類が多数出現した。 ・ 底生生物調査では、一部の定点で若干数の汚染指標種が認められた。汚染指標種はこの10年間連続して出現しているものの、増加傾向は認められない。 3 沿岸定地水温観測 ・ 男鹿市台島地先で日別に水温データを収集、9月の平均水温が過去12年間と比較し、最高値を記録した。	

課題番号 2	課題名 底魚資源管理手法の確立に関する研究
研究期間： 新規 H22～26 担当部： 資源部 共同研究：	当初予算 1,690(千円) (内訳)国庫 一般 1,190 その他 500
<p>研究の目的</p> <p>底びき網漁業の主対象魚類の新規漁獲加入前の資源豊度を把握し、それらが漁獲対象となる時点における複数魚種を組み合わせた利用管理手法の検討を行う。具体的にはタラ類、カレイ類、エビ類、ズワイガニを対象に調査船による底びき網試験操業により、仔稚魚、未成魚の状況を把握するとともに、その後の漁獲状況との関連から魚種毎の資源量を推定する手法を確立し、対象資源の状況に応じた管理手法を検討する。</p>	
<p>試験計画</p> <p>(1)底生魚類稚魚調査(H22～26) (2)水産資源調査(H22～26)</p>	
<p>実績・成果</p> <p>平成8年度まで漁業試験として実施し、16年度からは漁場環境調査と人工魚礁増殖場関連調査の一部、水産資源調査、計量魚探を用いた資源評価手法の開発の各調査を統合して「水産資源変動要因調査」とした。</p> <p>平成21年度でこれを終了し、22年度に新たに本調査を起こした。</p> <p>調査船や民間船の用船により対象となる魚介類を採集したほか、漁協の水揚データを収集し、次のような調査を行った。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 底魚魚類稚魚調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 稚魚調査では水産上重要種について、選定した調査海域の2009年以降の仔稚魚密度を比較し、発生規模を経年比較できるようにした。 2 水産資源調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ マダラ及びスケトウダラの当歳魚・1歳魚の時期別の主要生息水深を明らかにし、試験操業における月別のCPUE及び体長組成の推移を把握した。 ・ マガレイ、ヤナギムシガレイ及びヒレグロ等のカレイ類について、当歳魚の分布域、密度、1歳魚の時期別の主要生息水深、産卵期を明らかにし、試験操業における月別のCPUE及び体長組成の推移を把握した。 ・ ホッコクアカエビ、クロザコエビ等のエビ類の時期別の主要生息水深、産卵期を明らかにし、試験操業における月別のCPUE及び体長組成の推移を把握した。 ・ ズワイガニについて、雌雄別齢期別甲幅組成、雄のかん脚高の関係、水深別雌雄別出現状況、水ガニの出現状況等について整理した。 	

課題番号 3	課題名 我が国周辺水域資源調査	
研究期間： 継続 H17～ 担当部： 資源部 共同研究：	当初予算 7,074(千円) (内訳)国庫 一般 その他 7,074	
研究の目的 我が国周辺水域内の水産資源の状況や動向をよりの確に把握し、その保存・管理に関する施策の実施に必要な基礎資料を整備するための調査などを行う。		
試験計画 (1)漁場別漁獲状況調査(H19～) (2)生物情報収集調査(H19～) (3)沿岸資源動向調査(H19～) (4)漁場一斉調査(H19～) (5)沖合海洋観測等調査(H19～) (6)新規加入量調査(H19～)		
実績・成果 全国的な資源評価の一環として、次の調査及び情報収集を行った。 <ol style="list-style-type: none"> 1 漁場別漁獲状況調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月別の小型底びき網、ベニズワイガニかご漁業の漁獲成績報告書を収集し、F R E S C Oに入力した。 2 生物情報収集調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 月別の漁業種類別漁獲量を集計した。 3 沿岸資源動向調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ ウスメバルの年別漁業種類別漁獲量を集計、岩館地区で銘柄別サイズ、組成を調査した。 4 漁場一斉調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ ズワイガニ、ハタハタについて、試験操業により資源状態を把握した。 5 沖合海洋観測等調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ 4～6月、9～11月、2、3月に海洋観測及び卵稚仔採集を実施した。 6 新規加入量調査 <ul style="list-style-type: none"> ・ ヒラメについて、桁網による試験操業を行い、当歳魚の分布密度を把握した。 		

課題番号 4	課題名 大型クラゲ出現調査及び情報提供事業	
研究期間： 継続 H18～ 担当部： 資源部 共同研究：	当初予算 2,350(千円) (内訳)国庫 一般 その他 2,350	
研究の目的 大量来遊の恒常化が懸念される大型クラゲについて、本県海域への来遊状況をモニタリングし、関係機関等へ迅速に情報提供を行う。		
試験計画 (1)大型クラゲ出現調査(H18～) (2)大型クラゲ出現聞き取り調査(H18～)		
実績・成果 1 大型クラゲ出現状況調査 ・ 千秋丸による洋上目視観察及び底びき網入網状況を調査した。 2 大型クラゲ出現聞き取り調査 ・ 大型クラゲは10～11月にかけて出現したが、定置網、底びき網ともに入網数はおおむね0～数個体で推移し、大きな漁業被害には至らなかった。		

課題番号 5	課題名 ハタハタの資源変動要因と漂着卵に関する研究	
研究期間： 新規 H22～26 担当部： 資源部・増殖部 共同研究：	当初予算 1,411(千円) (内訳)国庫 一般 1,411 その他	
研究の目的 ハタハタの資源量を律する大きな要因である発育初期の生残過程を解明する。 また、種苗生産技術の改良を行うほか、近年増加している漂着卵の簡便な管理による孵化放流技術を開発する。		
試験計画 (1)ハタハタ卵稚仔調査(H22～26) (2)卵塊密度調査(H22～26) (3)生け簀内に蝸集する天然餌料プランクトンの定量調査(H22～26) (4)漂着卵に関する調査(H22～25)		
実績・成果 1 ハタハタ卵稚仔調査(H22～26) <ul style="list-style-type: none"> ・ 仔稚魚の成長と分布密度の変化を把握した。H24年級群の豊度は平年並みかやや低いと推測された。 2 卵塊密度調査(H22～26) <ul style="list-style-type: none"> ・ H25年1～2月に実施。県北部で密度が上昇、男鹿周辺と県南部は前年同様であった。 3 生け簀内に蝸集する天然餌料プランクトンの定量調査(H22～26) <ul style="list-style-type: none"> ・ H25年1～3月に実施。LED区とLED強化区に蝸集するプランクトンを採取した。 4 漂着卵に関する調査(H22～25) <ul style="list-style-type: none"> ・ 定量調査において、H24年12月の漂着量はH20年以降最小であった。 ・ シャワー式で管理した発眼卵の最適なふ化刺激の検討をした結果、乾出、シャワー一時間共に24時間とした、24時間乾出試験区でふ化率が高かった。 		

課題番号 6	課題名 種苗生産技術の高度化に関する研究
研究期間： 継続 H23～H26 担 当 部： 増殖部 共同研究：	当初予算 15,717(千円) (内訳)国庫 一般 5,543 その他 10,174
研究の目的 有用水産資源の維持・増大の一環として、ガザミ、アユ、トラフグについて、優良な種苗を低コストで安定的に生産するための技術を開発する。	
試験計画 (1)ガザミ種苗生産技術の高度化(H23～26) (2)アユ種苗生産技術の高度化(H23～26) (3)トラフグ種苗生産技術の高度化(H23～26)	
実績・成果 (財) 秋田県栽培漁業協会への種苗生産事業の移転状況 クルマエビH4～、アワビH8～、マダイH20～、ヒラメH20～、クロソイH21～ S55～H22年度まで行われた種苗生産事業で得られた成果を基に、真菌症の発生により生産が不安定なガザミ、飼育期間が長期にわたり加温コストが嵩むアユ、生残率が不安定で噛み合いによる尾鰭欠損率が高いトラフグの3種について、種苗生産技術の高度化を図る。 1 ガザミ種苗生産技術の高度化 <ul style="list-style-type: none"> ・ 種苗生産ではC1～C2種苗を2,911千尾生産し、平均生残率は24.2%であった。 ・ 中間育成ではC1種苗736千尾を使用し、C2～C3種苗341千尾生産。生残率は46.3%であった。 2 アユ種苗生産技術の高度化 <ul style="list-style-type: none"> ・ アユ親魚の成熟が遅れたため、例年より約2週間遅れて生産を開始した。 ・ 淡水馴致期間の予備試験を行った。(4日→3日) 3 トラフグ種苗生産技術の高度化 <ul style="list-style-type: none"> ・ ふ化器の種類別、注水量別の受精卵の生卵率比較試験を行った結果、筒型ふ化器では注水量を少なくした方が生卵率が高かった。 ・ 飼育水温別の加温に要する熱量比較を行い、最も効率的な生産方法を試算した結果、22℃での飼育が最良だった。 	

課題番号 7	課題名 秋田の川と湖を守り豊かにする研究
研究期間：継続 H21～25 担当部：資源部・増殖部 共同研究：青森県水産総合研究センター 内水面水産研究所	当初予算 798(千円) (内訳)国庫 一般 798 その他
研究の目的 八郎湖における水産資源と生息環境の関連把握、十和田湖におけるヒメマス資源の増殖・管理手法の提示、アユ資源の変動要因の解明及び外来魚やカワウの効果的な駆除方法の確立に関する研究を行い、秋田の川と湖を守り豊かにする。	
試験計画 (1) 指定湖沼八郎湖の水族保全(H21～25) (2) 十和田湖観光資源ヒメマスの維持・培養(H21～25) (3) 三大河川最重要魚種アユの増大(H21～25) (4) 水産資源に危害を及ぼす生物の被害防除(H21～25)	
実績・成果 1 指定湖沼八郎湖の水族保全 ・ 八郎湖において水質・プランクトン・底生生物等の調査を行い、漁場環境を把握するとともに、主要魚介類の生息状況を把握した。 2 十和田湖観光資源ヒメマスの維持・培養 ・ ヒメマス資源の変動を左右する湖内のプランクトンと胃内容物組成等を調査した。 3 三大河川最重要魚種アユの増大 ・ 米代川水系及び船越水道において稚魚の遡上状況等を調査し、資源状態を推定し情報提供するとともに、アンケート調査によりアユの釣獲状況等を把握した。 ・ 米代川水系を主体に産卵場の状況について調査した。 4 水産資源に危害を及ぼす生物の被害防除 ・ ため池等における駆除作業の立ち会いや、八郎湖におけるさし網の定点調査により、外来魚の生息状況を把握した。 ・ 米代川水系を中心にカワウの生息状況を把握したところ、これまでのねぐらの確認数は11箇所となり、年によりその形成状況は異なった。	

課題番号 8	課題名 生物の多様性に配慮した内水面増養殖技術の確立に関する研究	
研究期間： 継続 H22～26 担当部： 増殖部 共同研究：	当初予算 4,290(千円) (内訳)国庫 一般 4,283 その他 7	
研究の目的 平成20年に生物多様性基本法が施行されたほか、内水面において漁協が実施する種苗放流等の増殖行為においても、地域の自然的・社会的条件に応じた生物多様性の保全及び持続可能な利用が求められていることから、これらに配慮しつつ、地域に適合して効果的な増殖技術の確立を図る。		
試験計画 (1) サクラマス水系別増殖技術の確立 (H22～26) (2) 天然遡上アユに由来する良く釣れるアユの種苗生産 (") (3) 水系別在来溪流魚の確保と増養殖技術の確立 (") (4) サケの育成・放流指導、資源管理技術の確立 (") (5) 河川・湖沼重要水産資源の増殖技術の改善・指導 (")		
1 サクラマス水系別増殖技術の確立 ・ 米代川水系由来のサクラマス稚魚の標識放流・追跡調査を行うとともに、内水面試験池において3水系に由来するサクラマスの親魚養成を行った。 2 天然遡上アユに由来する良く釣れるアユの種苗生産 ・ 阿仁川に遡上した天然アユを6月下旬に採捕し、内水面試験池で親魚養成し、秋季に卵を種苗生産事業に供した。 3 水系別在来溪流魚の確保と増養殖技術の確立 (イワナ) ・ 関係者からの聞き取り結果を基に、子吉川水系の笹子川合流点より上流において、在来個体群の生息場所を推定した。 ・ 阿仁川支流水尻沢川から捕獲した親魚から採卵を行った。 ・ 在来個体群由来の種苗と養殖種苗間で成長と生残を比較した。 4 サケの育成・放流指導、資源管理技術の確立 ・ サケ親魚の来遊状況調査と年齢査定を行うとともに、ふ化場の飼育指導と増殖実態調査を行った。 5 河川・湖沼重要水産資源の増殖技術の改善・指導 ・ 阿仁川支流7か所で間伐材による人工産卵場を造成したところ、そのうち4か所でサクラマス、ヤマメの産卵が確認された。		

課題番号 9	課題名 藻場と磯根資源の維持・増大及び活用に関する技術開発
研究期間： 継続 H24～28 担当部： 増殖部 共同研究：	当初予算 1,176(千円) (内訳)国庫 一般 1,176 その他
研究の目的 藻場の減少原因の解明と藻場復元・造成技術の開発を目的として、植食性の駆除、海藻種苗の添加、栄養塩・鉄分の施肥等による対策技術を開発する。また、イワガキの再生産技術、ワカメ養殖技術の改良とネカブ養殖技術、アワビ増養殖技術を開発する。	
試験計画 (1) 藻場の減少原因の解明と復元・造成技術開発 (H24～28) (2) ワカメ・メカブ養殖技術開発 (〃) (3) アワビ増養殖技術開発 (〃)	
1 藻場の減少原因の解明と復元・造成技術開発 <ul style="list-style-type: none"> ・ にかほ市象潟町地先での調査の結果、海藻現存量は23年度に比べてやや増加しており、ウニなどの植食性動物が減少していた。 ・ 沿岸域の水質調査を行い、鉄分・窒素・リン濃度を測定した結果、河川水の影響と見られる変動があった。 ・ 鉄分・窒素・リンの添加が海藻の成長に与える影響について、ホンダワラ類2種(アカモク・ミヤベモク)を対象に成長比較試験を実施した結果、海藻種別に栄養要求が異なることが示唆された。 2 ワカメ・メカブ養殖技術開発 <ul style="list-style-type: none"> ・ 藻場造成の可能性検討のため、カキ殻に付着させたワカメ幼芽を岩礁域に散布したが、散布したカキ殻を発見できなかったため、場所選定等の再検討が必要とされた。 ・ ワカメ配偶体を藻場が減少している岩礁域に散布し、3月に調査した結果、当該海域でワカメが確認されたが、散布による効果か天然資源が増加したためか判別ができなかった。 ・ 海藻種糸巻付器の改良を実施し、その効果を確認した(FS事業)。今後は普及を図る必要がある。 3 アワビ増養殖技術開発 <ul style="list-style-type: none"> ・ アワビ市場調査により、人工放流種苗の回収率が3.2%、経済効果指数は0.59と推定され、平成16年度に次ぐ低い値となった。 	

6 主要行事・会議等

(1) 主要行事・会議

行事・会議	開催日	開催場所
地域振興局農林部長・地方機関長会議	H24. 4. 23	秋田市
(財)秋田県栽培漁業協会評議員会	H24. 5. 15	秋田市
第1回農林水産部試験研究機関場所長会	H24. 5. 16	秋田市
千秋丸起工式	H24. 5. 17	室蘭市
全国水産試験場長会内水面部会・幹事会	H24. 5. 24～25	東京都
十和田湖ヒメマス放流式	H24. 6. 22	小坂町
東北・北海道内水面試験研究連絡協議会	H24. 7. 5～6	盛岡市
(財)秋田県栽培漁業協会評議員会	H24. 7. 17	秋田市
北部日本海ブロック水産試験場連絡協議会	H24. 7. 19	新潟市
千秋丸進水式	H24. 7. 24	室蘭市
水産振興センター参観デー	H24. 8. 4	水産振興センター
水産振興センター研究運営協議会	H24. 8. 21	水産振興センター
第10回海フェスタ実行委員会設立総会・第1回総会	H24. 8. 22	男鹿市
研究課題評価委員会	H24. 9. 3	秋田市
全国湖沼河川養殖研究会第85回大会	H24. 9. 6～7	滋賀県長浜市
第21回放流式	H24. 9. 11	八峰町
全国水産試験場長会内水面部会・幹事会	H24. 9. 18	東京都
第1回地域水産試験研究振興協議会	H24. 9. 19	東京都
全国水産試験場長会幹事会	H24. 9. 19	東京都
(財)秋田県栽培漁業協会評議員会	H24. 10. 10	秋田市
第10回海フェスタ実行委員会第1回幹事会	H24. 10. 11	男鹿市
機関業務評価委員会	H24. 10. 17	男鹿市
平成24年度第1回ハタハタ資源対策協議会	H24. 10. 23	秋田市
第2回農林水産部試験研究機関場所長会	H24. 11. 1	秋田市
(財)秋田県栽培漁業協会最初の評議員選定委員会	H24. 11. 6	秋田市
クニマスシンポジウム	H24. 11. 10	甲府市
第10回海フェスタ実施事業運営委員会	H24. 11. 15	男鹿市
平成24年度第2回ハタハタ資源対策協議会	H24. 11. 19	秋田市
全国水産試験場長会全国大会	H24. 11. 21	和歌山県串本町
第10回海フェスタ実行委員会第2回幹事会	H24. 12. 3	男鹿市
内水面関係研究開発推進会議	H24. 12. 5～6	栃木県宇都宮市
日本海ブロック研究開発推進会議	H24. 12. 13～14	新潟市
秋田県青年・女性漁業者交流大会	H25. 1. 22	秋田市
千秋丸竣工式	H25. 1. 29	秋田市
第10回海フェスタ実行委員会第3回幹事会	H25. 1. 31	男鹿市
第3回農林水産部試験研究機関場所長会	H25. 2. 13	秋田市
第10回海フェスタ実施事業運営委員会(第2回)	H25. 2. 15	男鹿市
第10回海フェスタ実行委員会第4回幹事会	H25. 2. 20	男鹿市
全国水産業関係研究開発推進会議	H25. 2. 28	横浜市

(続き)

行 事・会 議	開 催 日	開 催 場 所
第2回地域水産試験研究振興協議会	H25. 3. 1	東京都
全国水産試験場長会内水面部会・幹事会	H25. 3. 1	東京都
十和田湖水質・生態系会議	H25. 3. 4	秋田市
十和田湖資源対策会議	H25. 3. 5	秋田市
水産関係試験研究機関長会議	H25. 3. 7	東京都
クニマス里帰りプロジェクト特別企画展 オープニングセレモニー	H25. 3. 9	仙北市
(財)秋田県栽培漁業協会評議員会	H25. 3. 26	秋田市
平成24年度第3回ハタハタ資源対策協議会	H25. 3. 27	秋田市

(2) 研究管理のための場内会議・検討会

会議・検討会	開催日	開催場所
試験研究計画検討会	H24. 4月 16, 18, 19日	水産振興センター講義室
試験研究中間検討会	H24. 11月 13, 16日	水産振興センター講義室
試験研究成果検討会	H25. 3月 12, 13, 18日	水産振興センター講義室

7 技術支援

(1) 委員委嘱

名 称	役 職	職 名	氏 名
ハタハタ資源対策協議会	委員	所長	中村 彰男
秋田県沿岸環境・生態系保全対策地域協議会	委員	所長	中村 彰男
第10回海フェスタ実行委員会幹事会	幹事	所長	中村 彰男
船川港湾振興会	参与	所長	中村 彰男
(財)秋田県栽培漁業協会評議員会	評議員	所長	中村 彰男
河川流域振興活動実践事業検討委員会	委員	主任研究員	高田 芳博
航空防除推進協議会事故防止対策委員会	委員	増殖部長	白幡 義広
第10回海フェスタ男鹿市実施事業運営委員会	委員	総務企画班長	水谷 寿
秋田県版レッドデータブック改定検討委員会(淡水魚類)	委員	総務企画班長	水谷 寿

(2) 講師派遣

月・日	主催者	内容	担当部	派遣者
H24 6.11	秋田市将軍野桂町町内会 桂寿会	秋田の海に集う魚たち	資源部	山田 潤一
6.15	秋田県立大学	秋田県の水産業	資源部	山田 潤一
6.27	北秋田市 森吉公民館	秋田の海に集う魚たち	資源部	山田 潤一
9. 5	ふぐ取扱者講習会	秋田県で漁獲されるフグ	資源部	山田 潤一
9.26	にかほ市立小出小学校	人の力で水産資源を増やす 「栽培漁業」	総務 企画室	古仲 博
11.10	秋田市御野場新町3丁目公民館	秋田の海に集う魚たち	資源部	山田 潤一
11.14	秋田市中央高齢者大学	秋田の海に集う魚たち	資源部	山田 潤一
12. 6	金沢公民館(女性スマイル講座)	秋田の海に集う魚たち	資源部	山田 潤一
12. 7	秋田市立小中学校事務研究会	秋田の海に集う魚たち	資源部	山田 潤一
12.13	中通地区高齢者学級	秋田の海に集う魚たち	資源部	山田 潤一
H25 2. 7	男鹿市立船川南小学校	魚や貝を育む藻場の話	増殖部	加藤 芽衣

(3) 受入研修

① インターンシップ事業等

期間	研修者の所属・数	内容
H24. 7. 3～5	秋田県立男鹿海洋高校 海洋環境科 3名	水産資源管理、水産資源増殖、内水面漁業 (講義・実習)
H24. 8. 3～4 (職場体験)	男鹿東中学校 3名	清掃活動、水産資源増殖、参観デー補助
H24. 9. 11～13	秋田県立大学生物資源科学部 2名	水産資源管理、水産資源増殖、内水面漁業 (講義・実習)

8 研究成果の発表・広報

(1) 主要刊行物の発行状況

誌名	発行時期	部数等	備考
平成23年度事業報告書	H24年12月	220部	「美の国あきたネット」へ概要掲載

(2) 不定期刊行物の発行状況

誌名	発行時期	部数等	備考
群来(第69号)	H24年12月	600部	「美の国あきたネット」へ概要掲載

(3) 実用化できる試験研究成果(平成24年度試験研究成果)

事項	内容	研究期間	担当部
普及	尾鰭欠損の無いトラフグ優良種苗の飼育技術	H20～24	増殖部

(4) 学会誌・研究会誌等

論文名	執筆者	発行誌名	
		巻・号・項	年 月
陸奥湾におけるハタハタ稚魚の豊度と成長履歴	工藤 充弘*	魚類学雑誌 59(1)	H24年4月
	高津 哲也*		
	福井 翔太郎*		
	甲本 亮太		
日本海北区広域連携ヒラメ調査報告書	渋谷 和治	我が国周辺水域資源評価 等推進委託事業報告書	H25年3月

*：外部の共同研究者（北海道大学水産学部大学院）

(5) 学会発表・研究会発表

学会等の名称	月日	開催場所	題目	発表者
東北・北海道内水面試験連絡協議会	H24. 7. 4～5	盛岡市	秋田県におけるサクラマス産卵範囲拡大に向けた試験研究結果	佐藤正人
日本水産学会東北支部大会	H24. 11. 2～3	青森市	米代川水系から標識放流されたサクラマスの移動状況と成長速度	佐藤正人
日本水産学会東北支部大会	H24. 11. 2～3	青森市	海洋環境が秋田県のハタハタ漁業に及ぼす影響	甲本亮太
マス類資源研究部会	H24. 12. 6～7	東京都	サクラマス遡上範囲拡大を目的とした簡易魚道の開発試験－2	佐藤正人
アユ資源研究部会	H25. 2. 7～8	東京都	阿仁川米内沢頭首工に設置された斜路式魚道におけるアユの通過状況	佐藤正人
日本海ブロック水産業関係研究開発推進会議 日本海資源生産研究部会 日本海ブロック増養殖研究会	H25. 3. 15	新潟市	秋田県南部沿岸における磯根漁場と栄養塩の状況について	加藤芽衣

(6) 新聞等への掲載

誌名等	掲載月日	内 容	担当部
魁	H24. 4. 30	岩手へヒラメ15万尾 稚魚の生産	増殖部
魁	H24. 5. 1	養殖業再建の基盤に 水産の「種」送る	増殖部
魁	H24. 5. 14	トラフグ資源調査へ 県、稚魚放流効果見えず男鹿半島南側で本年度から2年	資源部
読売	H24. 5. 15	岩手、宮城の栽培漁業支援 施設破損で県など ヒラメの種苗受託生産技術研修員の受け入れ	増殖部
魁	H24. 5. 18	県の新調査指導船千秋丸造船作業の無事祈る	資源部
魁	H24. 5. 19	お礼のワカメ宮城から届く 復興支援で種提供	増殖部
魁	H24. 5. 28	ハタハタ稚魚を調査	資源部
魁	H24. 6. 9	北限のふぐ資源量調査へ 天王沖に最北の産卵場。 夏にも捕れ、旬が年2度。	資源部

(続き)

誌名等	掲載月日	内 容	担当部
魁	H24. 6. 18	宮城の4人、県栽培漁業協会研修 ヒラメ育成技術学ぶ 被災地再生向け意欲	増殖部
魁	H24. 6. 25	アユ遡上は遅れ気味	増殖部
魁	H24. 6. 30	ヒラメ稚魚岩手へ 復興支援で育成、出荷	増殖部
魁	H24. 7. 14	本県漁業を側面支援 最新の設備で海洋調査 千秋丸 ^上	資源部
魁	H24. 7. 16	有害サメ 駆除に本腰 漁網、漁獲物に被害続出 延縄で 捕獲 県、効果実証へ	資源部
読売	H24. 7. 20	イワガキの漁場再生 海藻や貝除去で岩盤清掃	増殖部
魁	H24. 7. 21	耐用年数過ぎ更新へ 業務の効率化も不可避 千秋丸 ^下	資源部
魁	H24. 7. 25	新「千秋丸」が進水 室蘭で建造、6億円超	資源部
魁	H24. 7. 28	クニマス こうやって判定	資源部
魁	H24. 8. 29	ヒラメ稚魚30万匹提供 青森の種苗施設 技術交流も	増殖部
魁	H24. 9. 3	大型クラゲ来遊に注意	資源部
魁	H24. 10. 1	水管理に細心の注意 種苗生産 三浦肇	増殖部
魁	H24. 10. 4	海洋データ提供 海保から感謝状	資源部
魁	H24. 10. 8	磯焼け対策急務 本県沿岸藻場減少 養分変化や食害原因 か 復元目指し分析、研究	資源部
魁	H24. 10. 21	サケ漁鈍い出足 厳しい猛暑原因か 昨年の2割止まり	増殖部
魁	H24. 10. 22	海、川にも猛暑の影響	資源部
朝日	H24. 10. 24	ハタハタ漁獲枠100トン減らし2700トン	資源部
魁	H24. 10. 24	ハタハタ漁獲枠2700トン 資源対策協議会 12年漁期、2歳 魚主体	資源部
読売	H24. 10. 24	今期ハタハタ漁獲枠 100トン減2700トンに	資源部
魁	H24. 10. 29	新「千秋丸」荒天の中入港	資源部
魁	H24. 11. 10	ハタハタ資源量 年齢ごとに匹数を推定。データ蓄積で精 度向上	資源部
読売	H24. 11. 20	ハタハタ初漁日 29日前後の予想	資源部
朝日	H24. 11. 20	季節ハタハタ初漁予測29日	資源部
魁	H24. 11. 20	季節ハタハタ初漁は29日ごろ 資源対策協議会水温低下で 「平年並み」	資源部
魁	H24. 12. 1	季節ハタハタ初水揚げ 船川港1.8トン、八森漁港18キロ	資源部
魁	H24. 12. 5	黄金のサケまた捕れた にかほ市象潟町沖 漁の最後に縁 起物	資源部
魁	H24. 12. 9	季節ハタハタ にかほでも初水揚げ	資源部
魁	H24. 12. 14	金のハタハタ 平沢漁港で水揚げ	資源部
魁	H24. 12. 21	雌少なく、漁獲量低調 季節ハタハタ漁、終盤へ 今月前 半大群接岸 しけ続きで船出せず	資源部
魁	H24. 12. 24	ハタハタを育む地形	資源部
東奥	H25. 1. 9	ハタハタ漁不振 本県（青森県）日本海岸 悪天候影響か	資源部
魁	H25. 1. 9	「良いアユに成長して」 男鹿・県水産振興センターでふ 化→北秋田・阿仁川あゆセンター 養殖池に“里帰り”	増殖部
魁	H25. 1. 12	アユ、震災被害の岩手へ 稚魚100万匹を代替生産	増殖部

(続き)

誌名等	掲載月日	内 容	担当部
魁	H25.1.23	漁場に海藻養殖、餌確保 アワビの生育順調 県青年・女性漁業者交流取り組み成果発表	総務企画班
魁	H25.1.24	漁獲低調00年以降最少 今季の季節ハタハタ漁終了 接岸時しけ、出漁できず	資源部
朝日	H25.1.27	ハタハタ不漁 漁獲枠の4割 10年間で最少	資源部
魁	H25.1.30	漁網監視など最新調査機器搭載 漁業安定新千秋丸活用へ竣工式、船内を公開	資源部
水産経済	H25.1.31	秋田県漁業調査指導船千秋丸が竣工 よりコンパクトで機能的	資源部
朝日	H25.2.5	漁業調査指導船新千秋丸が完成	資源部
魁	H25.3.25	天然ワカメを大型化	増殖部
魁	H25.3.28	今季の季節ハタハタ漁 漁獲枠57%の931トン 前季比28%減 資源低下の可能性	資源部
魁	H25.3.28	漁獲枠の半分以下 今冬のハタハタ漁	資源部

(7) ホームページの更新・アクセス数

① ホームページの更新

月 日	内 容
H24 4. 4	男鹿で「ナメダンゴ」が獲れました！
4.18	調査船 運行予定
4.19	男鹿で『ウバトリガイ』が獲れました！
5.25	男鹿市でマダイとブリ漁が始まる！！
6. 8	新調査指導船「千秋丸」の起工式が開かれる
7. 4	平成24年度の大型クラゲ出現情報
7. 9	新漁業調査指導船『千秋丸』の建造進む
7.11	水産振興センター見学者（H24）
7.20	男鹿で『ヒメオコゼ』が獲れました。
7.20	男鹿で『サメガレイ』が獲れました！！
8. 8	漁業調査指導船『千秋丸』の建造進む（2）
8.24	男鹿市の定置網でマグロ2千本水揚げ！！
9.11	海と川の幸物語
9.27	漁業調査指導船『千秋丸』の建造進む
10.23	漁業調査指導船 千秋丸 海上公式試運転を行いました
10.23	平成24年度 ハタハタ資源対策協議会資料
11.12	戸賀で『イセゴイ』が獲れました！！
12.25	県議会農林水産委員会の皆さんが千秋丸に乗船
12.25	センター産アユ種苗の出荷始まる
12.26	ハタハタ資源管理に関する韓国及び鳥取県との交流
12.27	平成22年度 事業報告書
12.27	平成23年度 事業報告書
H25 1. 7	沿岸環境関連学会連絡協議会 第28回ジョイントシンポジウム開催のお知らせ

(続き)

月 日	内 容
1. 9	平成16年度 事業報告書
1. 9	事業報告書2000～2005年まで全文章閲覧できるようになりました
1. 15	震災復興支援のアユ稚魚を出荷
1. 17	(所内) ハタハタ寿司品評会を開催!!
2. 5	漁業調査指導船「千秋丸」パンフレット
2. 5	「千秋丸」竣工式を挙りました
2. 6	平成24年度 業務概要
2. 8	感謝状が授与されました
2. 12	水産振興センター見学者 (コーナー設置)
2. 13	珍しい魚など (コーナー設置)
2. 19	ひより会がふるさと秋田農林水産大臣賞を受賞しました
土日祝日以外	
毎日更新	きょうの海水温
毎旬更新	漁況旬報
毎月更新	海洋観測結果

※以前に採捕された珍しい魚等についての再掲載も行っている。

② コンテンツアクセス数

コンテンツ	アクセスの概数 (件)
きょうの海水温	22,743
海洋観測結果	475
漁海況情報	49
漁況旬報	618
大型クラゲ情報	539
ハタハタ資源対策協議会	463
見学・研修の手引き	448
群来	287

9 知的財産

(1) 特許関連一覧

NO	特許の名称	発明者	共同出願者	特許出願日 出願番号	出願公開 公開番号	特許登録 登録番号	備考
1	γ-アミノ酪酸強化発酵食品の製造方法	船木勉	総合食品研究所	H15.8.6 特願2003-287680	H17.3.3 特開2005-52103	H21.6.12 特許第4320757号	
2	ハタハタ卵巣由来の粘質物、その取得方法および用途	杉山秀樹、船木勉	総合食品研究所	H15.9.8 特願2003-315142	H17.3.31 特開2005-82525	H22.6.11 特許第4524467号	
3	ハタハタ卵巣の凍結加工品の製造方法	船木勉	総合食品研究所	H18.9.29 特願2006-266698	H20.4.10 特開2008-079580	H23.4.8 特許第4714879号	
4	海藻種糸巻付器及びその使用法	斎藤和敬		H21.11.20 特願2009-265240			

10 視察・見学・総合学習

(人)

月・日	視察・見学者・総合学習	見学者数
水産振興センター分		
H24. 5. 25	天王大崎老人クラブ	28
6. 7	秋田市立明德小学校	58
6. 12	秋田市立飯島南小学校	68
6. 15	男鹿市立船川第一小学校	36
6. 22	大崎婦人会	14
6. 25	秋田市御所野寿大学	62
6. 26	秋田市立太平小学校	16
6. 27	旬の地魚ツアー	30
7. 4	三種町立浜口小学校	23
7. 10	男鹿市立払戸小学校	28
7. 13	fraser delta basketball club	31
7. 18	男鹿更正会	41
7. 19	秋田市立仁井田小学校	112
7. 24	大仙市大沢郷地区、強首地区公民館	22
7. 27	潟上市大久保駅前老人クラブ	22
7. 27	秋田県立大学（秋田農林水産学）受講生	10
8. 7	男鹿市消費者の会	50
8. 21	青森県南部町役場	20
8. 26	旬の地魚ツアー	30
8. 31	一般	4
8. 31	秋田県立博物館職員	10
9. 11	男鹿市立北陽小学校	9
9. 11	農業研修生	3
9. 21	秋田市立上北手小学校	33
9. 21	秋田市立戸米川小学校	22
9. 26	大仙市立西仙北小学校	64
9. 28	潟上市立大豊小学校	56
10. 19	更生保護法人 至仁会 桐和会	30
10. 19	男鹿市立鶴ノ木小学校	12
10. 29	国学館高校	43
11. 14	農林年金受給者連盟 天王支部	15
12. 12	秋田市立豊岩小学校	14
H25. 2. 22	北海道八雲町漁協 ホタテ漁業組合員	17
合 計		1,036